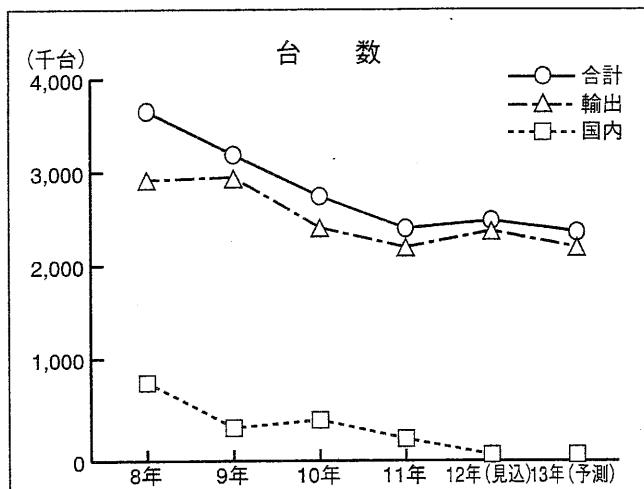
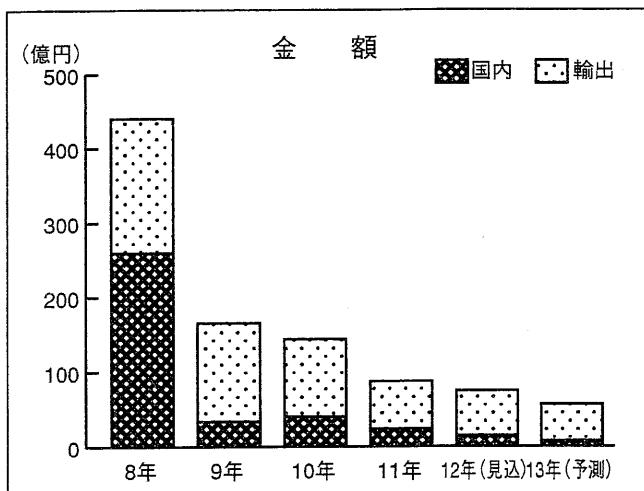


電子手帳



《国内需要》

- 携帯情報機器の普及・発展により、市場では厳しい状態が継続すると予測される。
- 個人の情報管理に限定した低価格機器としての需要が期待される。

《輸出需要》

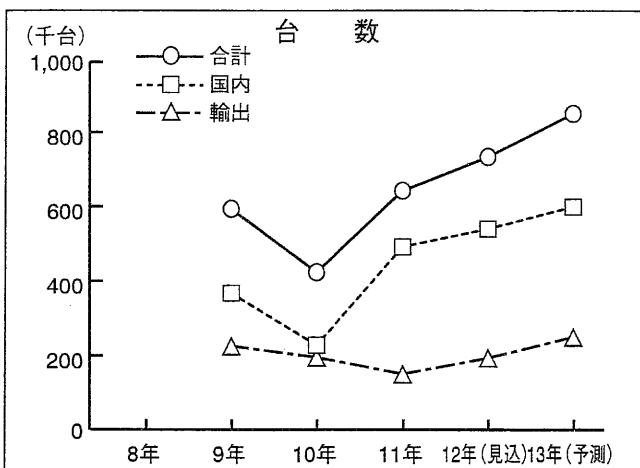
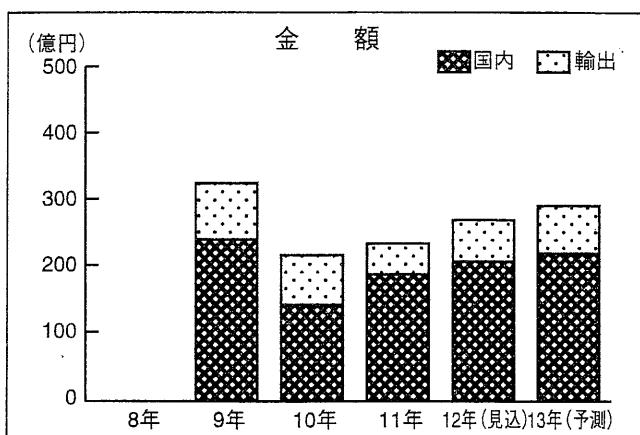
- 携帯情報機器の性能が向上し、北米・欧州等先進地域では厳しい状況が継続すると予測されるが、個人の情報管理に限定した、パソコンデータリンク機能の強化等、機能を絞った低価格機種によって、下支えが期待できる。
- 携帯情報機器の普及が進んでいない地域での需要が期待できる。

注) 平成8年までは、携帯情報機器を含む。

		平成8年 (1996)	平成9年 (1997)	平成10年 (1998)	平成11年 (1999)	平成12年 (2000) 見込み	平成13年 (2001) 予測
国 内	台数 前年比	735 87.8	252 —	334 132.5	175 52.4	60 34.3	50 83.3
	金額 前年比	25,937 114.7	3,394 —	4,017 118.4	2,117 52.7	700 33.1	500 71.4
輸 出	台数 前年比	2,917 96.0	2,936 —	2,407 82.0	2,244 93.2	2,500 111.4	2,250 90.0
	金額 前年比	18,104 95.4	13,149 —	10,358 78.8	6,958 67.2	7,300 104.9	5,840 80.0
合 計	台数 前年比	3,652 94.2	3,188 —	2,741 86.0	2,419 88.3	2,560 105.8	2,300 89.8
	金額 前年比	44,041 105.9	16,543 —	14,375 86.9	9,075 63.1	8,000 88.1	6,340 79.3

	1998	1999	2000	2001	2002
技術動向	ディスプレイ技術向上 大画面化 → カラー化、4色				→
	ペン入力 → 手書き文字認識				→
	光通信 → IrDA標準				→
	メモリ容量拡大/フラッシュメモリ				→
	PC/Windowsソフトとのデータ交換				→

携帯情報機器



《国内需要》

- 1) 携帯端末はモバイルの言葉と共に世の中の関心が高まりつつあり、端末を手がけるメーカーも増加、マスコミもこぞって報道合戦を展開し、市場をあおっている。こうした中で今年、来年にかけて規模は2桁成長を遂げると予測される。
- 2) メール端末やキャリアブランド品の台頭で単価の下落傾向は継続すると予測される。
- 3) 法人需要に関しては、企業内のネットワークシステムにフィットし、コストパフォーマンスと携帯性に優れたモバイルツールへのニーズは依然として高く、市況の回復に伴って、需要の伸びが期待できる。

《輸出需要》

- 1) モバイルワーカーの増加、データ取扱量、コミュニケーションの増大による携帯情報機器へのニーズは依然として高く、米国を中心とした欧州、その他地域に需要が広がっていくと予測される。
- 2) 端末を手がけるメーカーの増加により、競争が激化し、単価は国内同様下落傾向が継続すると予測される。

注) 実績、見込み、予測は工業会自主統計参加メーカーによる。

		平成8年 (1996)	平成9年 (1997)	平成10年 (1998)	平成11年 (1999)	平成12年 (2000)見込み	平成13年 (2001)予測
内 国	台数 前年比			368	228	492	540
	金額 前年比			—	62.0	215.8	109.8
外 輸	台数 前年比			226	196	151	194
	金額 前年比			—	86.7	77.0	128.5
合 計	台数 前年比			594	424	643	734
	金額 前年比			32,564	21,759	23,513	27,017

	1998	1999	2000	2001	2002
技術動向	反射型フルカラー液晶				→
	コンテンツサービス				→
	G P S	→	位置情報サービス		→
	64k通信	→	128k通信	→	IMT-2000通信
	インターネット接続				→ IMT-2000携帯電話一体型
	デジタルカメラ搭載			→ 動画通信	→
	音声録音	→	音楽配信		→
	Windows CE	→	Handheld PC 2000		→
	パームサイズPC	→	Windows Pocket PC		→